

標準 學習活用事典

社会Ⅲ 政治・経済・社会



標準 學習活用事典

5

社会Ⅲ

政治・経済・社会



はしき

わたしたちが生活している現代社会は、日々、はげしく変化しています。たとえば、わたしたちの身のまわりをみても、テレビやラジオ、そして新聞などの報道機関がつたえている産業や社会の動きには、毎日のように新しいことが生まれています。政治や経済の分野でも、また、世界の国々や国際社会の動きにも、つぎつぎと急速な変化があらわれてきていることがわかります。

このように、日本はもとより世界中に変化が起きているのは、どうしてでしょうか。それは、人間の力がはたらいっているからです。人間の活動があるからです。ですから、これまでの人類の歴史はこうした活動のつきかさねであるといえます。

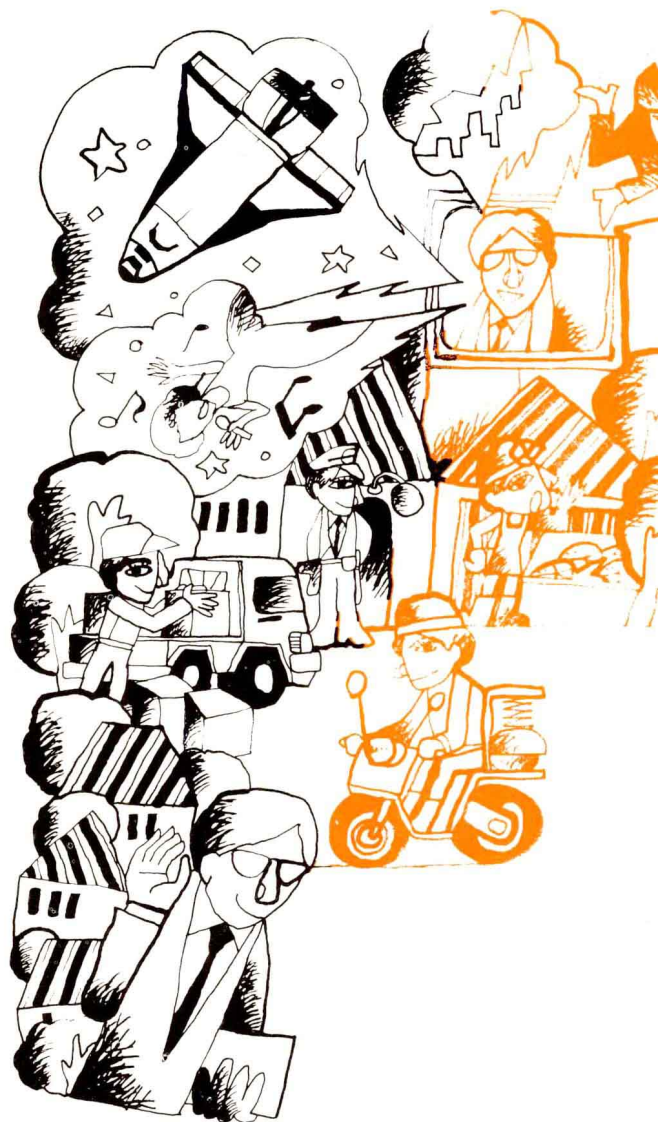
ところで、わたしたちはだれでも、しあわせな生活をおくる権利をもっています。そこで、つきつめていうならば、人類の歴史は、そういう人間の権利のますますたしかな実現をねがう大ぜいの人々の努力の歴史である、といえるでしょう。

さて、わたしたちは、だれもがしあわせな生活をおくれるよう、これからの日本や世界の歴史をつくっていくことに参加する力をやしなっていかなければなりません。

そのためには、各産業の生産活動や、政治・経済のしくみ、国際社会の動き、そして現代社会のさまざまな問題などについて、基的な知識を身につけることが、なによりも必要になってくるのです。そこで、みなさんには、学校での学習や、学校の外でのいろいろなことから、もしよくわからないことがあった場合には、そのままはおつておらずに、この学習活用事典ですぐにたしかめるようにしてください。

この巻が、みなさんの毎日の学習に少しでも役だつことができずならば、編集にあたったわたしたち一同にとって、このうえないよろこびと思います。





この巻をつくった人たち

(五十音順に配列)

原稿を書いた人たち

元九州大学名誉教授
青山 道夫
筑波大学教授
阿部 斉
東洋大学・都立大学
名誉教授
磯村 英一
東洋大学教授
犬田 章
大東文化大学講師
宇野 一

東京都環境整備公社
分析センター所長
大平 俊男
東京都立新島高等学
校教頭
太田 房太郎
武蔵大学教授
小沢 辰男
元警察庁専門官
加藤 康守
東京都千代田区立佐
久間小学校教諭
北 俊夫

国際経済研究センタ
ー理事長
紅林 茂夫
全国公民館連合会
小塚 久良雄
東京都立新宿高等学
校教諭
斎藤 績
元静岡大学文学部
長
鈴木 安蔵
消防団員等公務災害
補償等共済基金課長
須田 光雄

西友代表取締役常務
高丘 季昭
千葉県船橋市立海神
小学校校長
高橋 活博
東京都立墨田川高等
学校教諭
滝口 輝男

前東京都職業訓練部
長
竹沢 輝男
東京経済大学教授
中川 原徳仁
武蔵大学教授
波多野 真

創価大学教授
藤本 喜八
元東京大学名誉教授
宮原 誠一

装幀／吉田 誠

A D／桑原盛行

この事典の使い方

■ やくそく

年代については、世界じゅうで使われている西暦を中心に表示しています。また、必要におうじて、明治とか昭和などの日本だけで使われている年号をカッコ内に表記しています。

■ 教科書クイズ

このクイズはテストとちがって、教科書にでてくることがからから、すこし発展した内容のものをえらんで、楽しめるように工夫してあります。クイズをといたら、さらに本文にアタックしましょう。

■ 写真・図版

本文の解説をおぎない助けるために、写真や図版を数多くのせて

います。本文を読みながら、図版・写真をいっしょにみるようにすると、よりいっそう勉強が深まります。

■ 学習のめあて

各単元のはじめにもうけていますので、本文を勉強する前に、かならず目を通すようにしてください。

■ チャレンジテスト

チャレンジテストは、小学校の高学年から中学校までの範囲で出題しています。また、問題は、小学校高学年から中学校で勉強することの中から、基本的なものにしばっています。学校のテストの前には、かならずチャレンジしましょう。

写真・資料提供

アメリカ大使館 NHK 大阪造幣局 オリ
オンプレス 外務省 川崎重工 気象庁 共
同フォトサービス 警視庁 国際協力事業団
国際連合広報センター 最高裁判所 ジャパ
ンプレス 新日本製鉄 田川市立図書館 通
商産業省 伝統的工芸品産業振興協会 東京
家庭裁判所 東京中央郵便局 東京都公害研

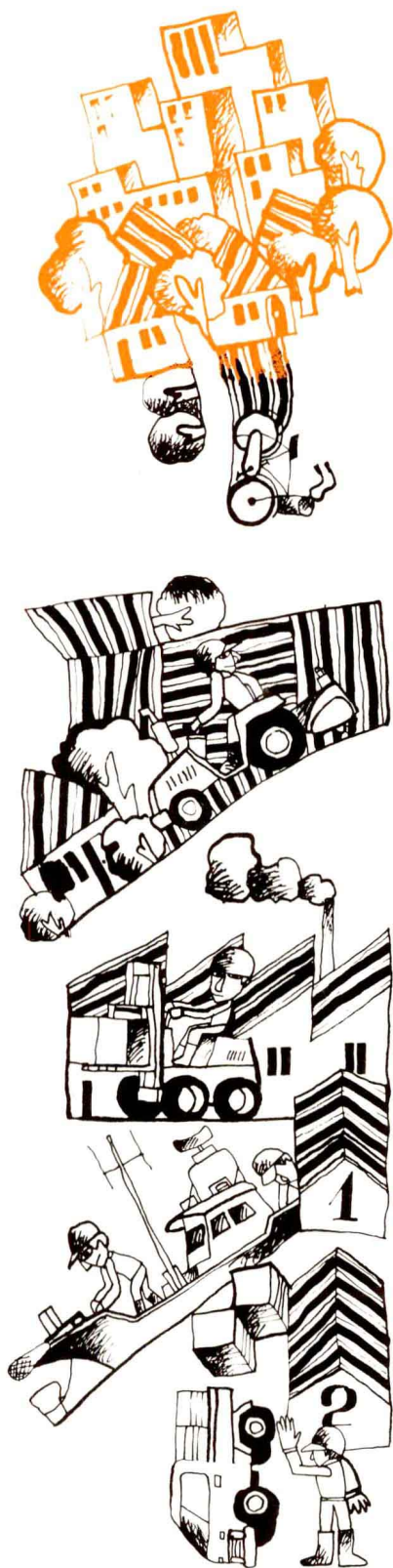
究所 東京都豊町保健所 東京都養育院長
野県立図書館 日産自動車 日本銀行 日本
鋼管 日本国有鉄道 日本消費者協会 農林
水産省 PANA通信社 法務省 武蔵野郷
土館 郵政省 ワールドフォトサービス 学
研写真部

図版作成

クリエートマシロ 斎藤敏明 つがる団平
トータス企画 日進工房 日本クリエイト
ユニオンプラン

編集

総括 杉山 茂生
阿部 実
大山 昌夫
A D 降幡 和利
編集協力 太陽プロジ
エクト
造本管理 白石 雄一



もくじ

第5巻

社会Ⅲ

政治・経済・社会



わたしたちの生活と産業

日本の産業のようす 18

わたしたちの生活と農業 20

米の生産 22

米づくりの機械化 24

野菜の生産 26

くだものの生産 28

畜産とらく農 30

日本の畜産 30

日本のらく農 31

農家のくらし 32

これからの農業 34

日本の林業 36

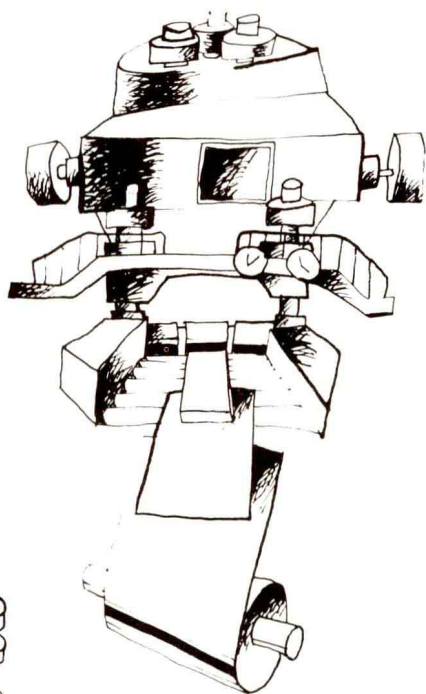
日本の森林
林業の仕事 36

わたしたちの生活と水産業 38

日本の水産業 40

漁家のくらし 42

これからの水産業 44



日本の鉱業	46
わたしたちの生活と工業	48
日本の工業	50
工業の原料とエネルギー	52
工業と技術	54
工業と公害	56
日本の製鉄業	58
鉄をつくる	60
日本の自動車工業	62
自動車をつくる	64

石油化学工業	66
日本の伝統工業	68
輪島ぬりのできるまで	70
日本の交通	72
交通の発達	72
日本の鉄道	72
都市交通	74
日本の自動車交通	74
海と空の交通	75

世界の資源と産業



世界の農業

78

世界の農業地域

78

米と麦

78

いろいろな農作物

81

世界の牧畜と水産業

87

牧畜地域

87

畜産品

88

世界の漁場と水産物

89

世界の森林資源

91

森林地帯

91

木材・パルプ・紙

91

天然ゴム

92

世界の地下資源とエネルギー

93

鉄

93

石炭

94

石油

95

電力

96

その他の鉱産物

98

世界の工業

100

工業のさかえる条件

100

世界の工業地帯

100

せいの工業

102

製鉄業

105

機械工業

106

化学工業

107

その他の工業

108

わたしたちの生活と社会

家庭かていの生活

110

家族かぞくと家庭かてい

110

家族制度かぞくせいど

110

新しい家庭生活あたらしいかていしやう

112

家庭かていの社会的役割しやかいてきやくわい

115

家庭の問題かていもんたい

116

村と都市の生活

117

村の生活

117

都市の生活

123

職業しやうぎふと社会生活

133

職業とはどんなものか

133

いろいろな職業いろいろなしやうぎふ

135

職業のえらび方

137

職場の問題しやうばもんたい

138

公共職業安定所の役割こうきしやうあんていじよやくわい

140

労働問題ろうどうもんだい

141

労働問題の起こりろうどうもんだい

141

労働組合ろうどうくわ

143

いろいろな労働問題いろいろなろうどうもんだい

146

社会保障しやかいほしやう

151

社会保障の役割しやかいほしやうやくわい

151

社会保障制度しやかいほしやうせいど

152

環境と公害かんきやうこうがい

159

わたしたちの環境わたしたちのかんきやう

159

いろいろな公害いろいろなこうがい

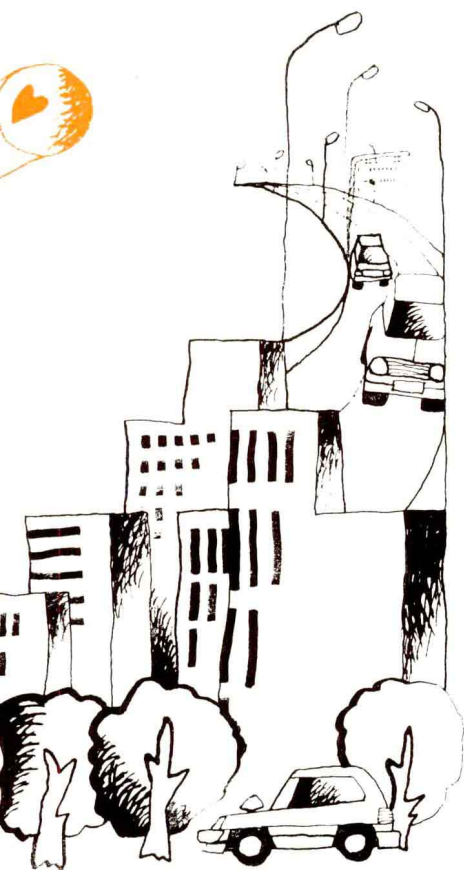
161

公害の対策こうがいたたいさく

168

学校教育と社会教育きやういく

172



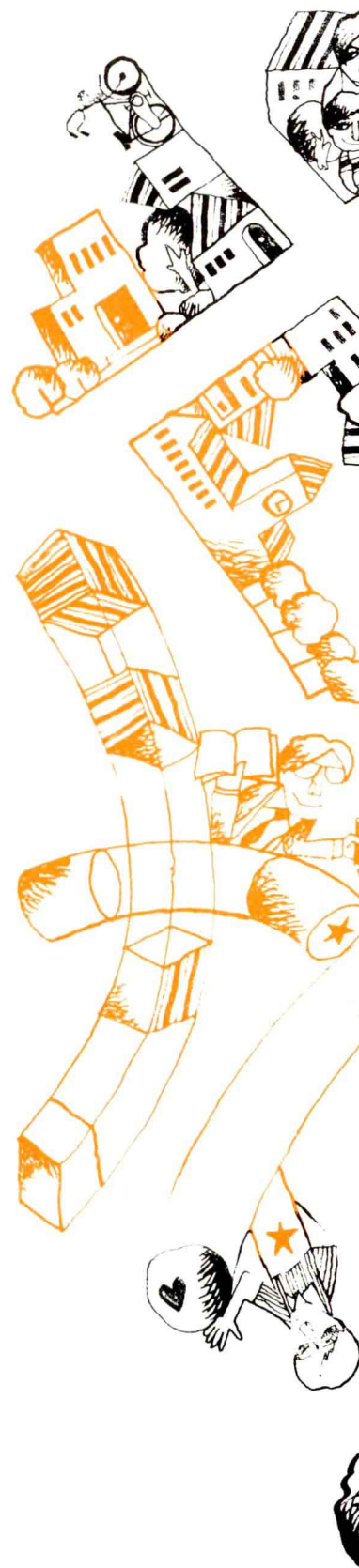
教育の働き	172
学校教育	174
学校教育の問題	176
社会教育	179
公共施設	182

公共施設の役割	182
公民館と図書館	184
警察署と消防署	190
保健所と診療所	197
郵便局	201

わたしたちの生活と経済

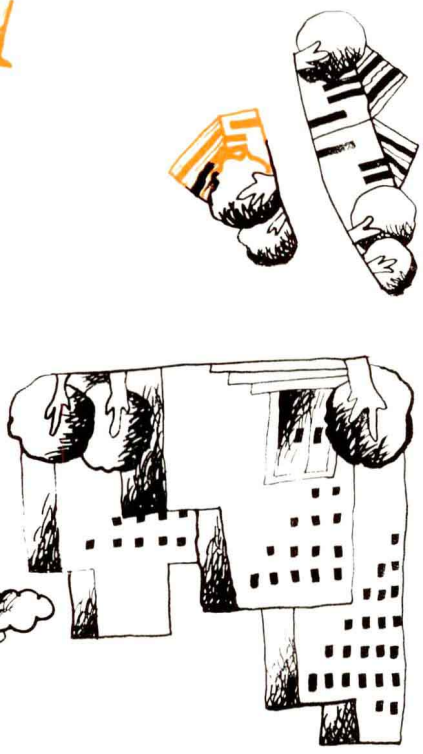
家計と消費	206
家庭の経済	206
生活水準	208
消費者運動	209
企業と生産	211
生産と技術	211
企業のしくみ	213
企業の集中	217
〈公正取引委員会の役割〉	219

流通のしくみ	220
商品の流通	220
いろいろな商業	221
物的流通業と流通補助産業	224
流通の近代化	224
価格と物価	226
価格と生活	226
いろいろな価格	228
物価	229





おかねの働き	230
おかねと社会	230
おかねの役め	231
いろいろなおかね	233
〈日本のむかしのおかね〉	236
〈日本のいまのおかね〉	236
〈中国のむかしのおかね〉	237
〈中国のむかしのおかね〉	237
〈外国のむかしのおかね〉	237
金融機関の働き	238
銀行の仕事	238
金融機関の種類	242
日本銀行の仕事	244
財政のしくみ	246
国の財政	246
地方財政	248
景気と財政	250
税金のしくみ	251



国民経済と国民所得	256
国民経済のしくみ	256
国民所得	258
景気の変動と経済の安定	260
高度成長から安定成長へ	260
景気変動と経済政策	261
インフレーションとスタグフレーション	263
資本主義経済と社会主義経済	265
資本主義経済	265
社会主義経済	266
日本経済のしくみ	267
日本経済のあゆみ	267
日本経済の特色	270
貿易と国際収支	273
貿易の役割	273

国際収支	274
外国為替と為替相場	276

わたしたちの生活と政治

民主主義のあゆみ	282
----------	-----

民主主義と人権	282
民主主義の発達	285

日本の憲法	294
-------	-----

憲法とはなにか	294
大日本帝国憲法	295
日本国憲法	297

国の政治	304
------	-----

国会	304
内閣	313
裁判所	321
へ弁護士役割	327

国際経済のうつりかわり	278
-------------	-----

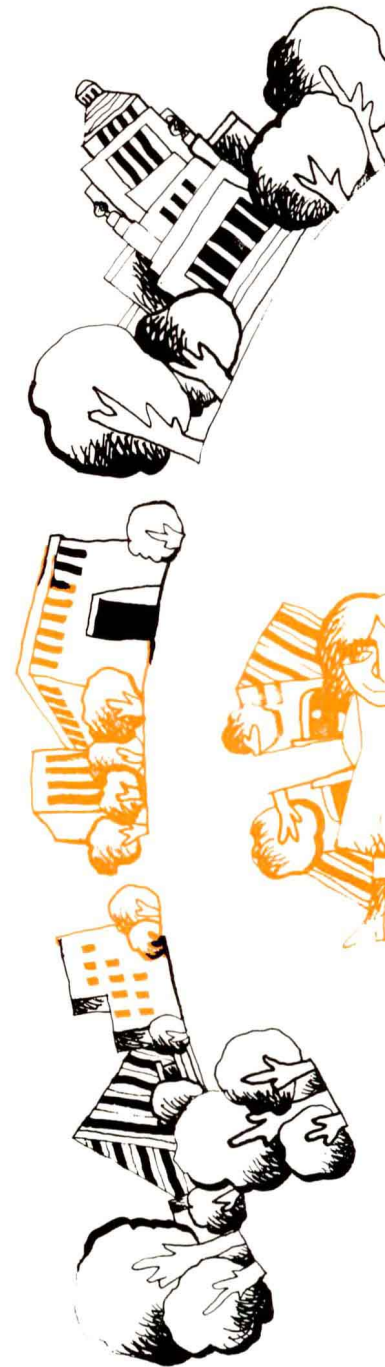
へ外国の政治	328
--------	-----

地方の政治	330
-------	-----

地方自治の働き	330
地方公共団体の役割	334
地方自治の問題	337
住民の権利	338

選挙と政党	340
-------	-----

選挙と民主政治	340
政党と議会政治	345
世論と政治	349
へ国会議員がえらばれるまで	352



国際社会と世界平和

国際社会のなりたち 356

国際社会 356

国際法 357

第二次世界大戦後の国際社会 359

アジア・アフリカ諸国の独立 361

国際政治年表 365

国際連合 366

国際連合の成立と目的 366

国際連合の組織 369

国際連合のあゆみ 372

国際協力と世界平和 374

経済協力と文化交流 374

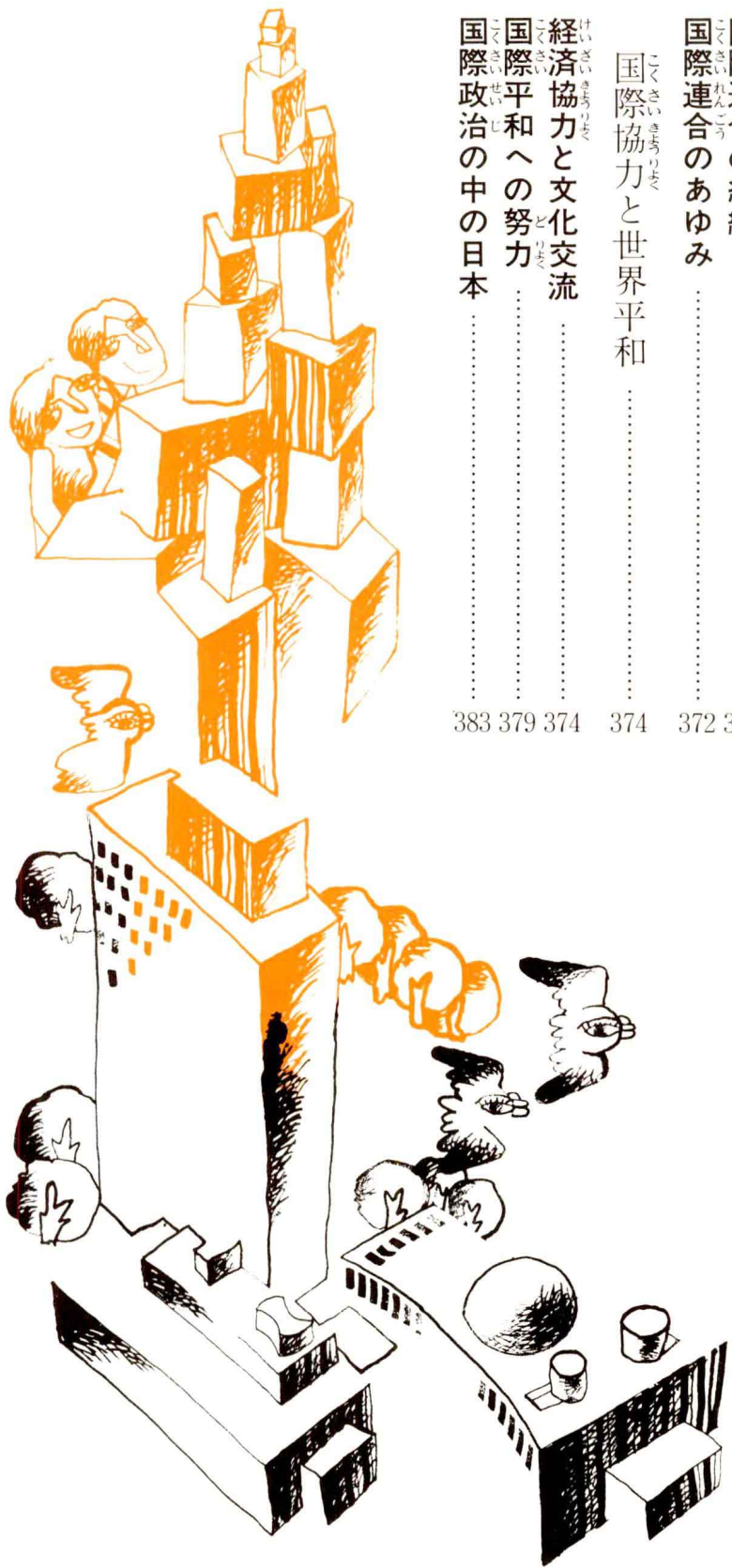
国際平和への努力 379

国際政治の中の日本 383

教科書クイズ 13

チャレンジテスト 385

さくいん 400



教科書クイズ

■問題 1 日本の最高気温

日本には、春・夏・秋・冬の季節の変化があり、夏はあたたかく、冬は寒さがきびしくなります。日本の気温の最低記録は、一九〇二年一月二五日に北海道の旭川市で記録したれい下四一・〇℃です。

また、日本の気温の最高記録は、一九三三年七月二五日に山形県の山形市で記録されました。

では、そのとき記録された最高気温は何度だったでしょうか。

- ア () 三九・一℃
- イ () 四〇・八℃
- ウ () 四三・五℃



■問題 2 平地の割合のもっとも大きい県（都道府）

日本の国土は、山地が日本列島の中央部を背骨のようにつらなっています。そして、山地は、国土の約四分の三もしめています。このように、山地の多い日本の中で、平地のしめる割合がもっとも大きいのは、何県（都道府）でしょうか。

- ア () 東京都で、都の面積の約四分の三をしめている。
- イ () 大阪府で、府の面積の約四分の三をしめている。
- ウ () 沖縄県で、県の面積の約四分の三をしめている。



■問題 3 米つぶからみた型

現在、イネは、アジア地域を中心に、アメリカやイタリアなど、世界各地で広くさいばいされています。そして、イネにみのる米つぶは、その形から、日本型とインド型とに大きくわけられます。日本型の中で、でんぶんの性質から、ねばりの強いのがもち米で、ねばりの少ないのが、うるち米です。インド型は、インドや中国をはじめ、東南アジアなど世界の大部分でさいばいされ、ねばりが少ないのが特徴です。

では、どれが米つぶの型として正しいでしょうか。

- ア () まるくてふとつたのが日本型、細長いのがインド型。
- イ () 細長いのが日本型、まるくてふとつたのがインド型。

■問題 4 米が農家の主食になる

いまでは、米の生産が多くなり、その生産量をおさえるような政策を国が行っています。しかし、むかしの農家の多くは、麦・アワ・ヒエなどしか主食にできませんでした。

では、農家で米が主食になったのは、いつからでしょうか。

- ア () 江戸時代、水田が多く開かれるようになってから。
- イ () 明治時代、年貢がはい止されたところから。
- ウ () 第二次世界大戦後、農地改革が行われてから。



■問題5 ミカンがみのるまでの年月

ある朝のテレビで、農家の人々のくだものづくりの農作業のようすを放送していました。農家では、肥料をほどこしたり、病害虫をふせぐため農薬をまいたりして、ていねいにそだてていました。

よく「モモ・クリ三年、カキ八年」といわれるように、くだものが、木にみのるまでには長い年月がかかります。

たとえば、ブドウは実がなるまでに五年、リンゴは九年かかります。

では、ミカンがなるまでには、何年かかるでしょうか。

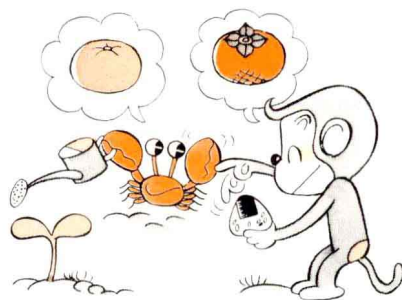
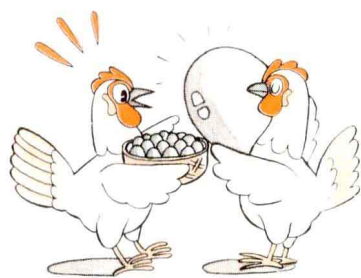
- (ア) 二年～三年
(イ) 五年～一〇年
(ウ) 一〇年～一五年
(エ) 一五年～二〇年

■問題6 ニワトリ一羽がうむタマゴの数

愛知県の濃尾平野にある養鶏団地をたずねました。この団地では、生後五か月でほぼ全部がタマゴをうむようになっているとのこと。また、生後八か月ぐらいいちばん多くタマゴをうみ、それ以後は少なくなり、長くなるとエサ代が高つくそうです。それで、この団地では、タマゴをうませる期間を一四～一五か月とめています。

では、その間に、一羽のニワトリはタマゴを何個うむでしょうか。

- (ア) 約一〇〇個
(イ) 約一八〇個
(ウ) 約三三〇個
(エ) 約五〇〇個



■問題7 もどってくるサケ

最近では、漁業資源を確保するために、日本各地でさいばい漁業がさかんになってきました。その中でも、北海道を中心に行われているサケのふ化・放流事業は、日本の漁業で重要な地位をしめるようになってきています。

タマゴからふ化した魚は、川の水温と海の水温が同じになる春に放流され、ほぼ四年、北の海を回遊して、自分が放流された同じ川にもどってきます。

では、もどってくるサケは、何パーセントぐらいでしょうか。

- (ア) 一〇～一パーセントぐらい
(イ) 一パーセントぐらい
(ウ) 二・五パーセントぐらい
(エ) 五パーセントぐらい

■問題8 せばめられる世界の漁場

以前には、日本の漁船は世界のどこの海にもでかけていて、自由に魚をとっていました。しかし、最近になって、漁業水域二〇〇カイリという制限をもうける国がふえてきて、外国の船がかつてに魚をとることができなくなっています。日本も一九七七年に二〇〇カイリ水域をもうけましたが、いまでは、世界の国々のうち九〇か国ほどが二〇〇カイリ水域をとっています。

では、日本は外国の二〇〇カイリ水域で、どのくらいの魚をとっていますか。

- (ア) 総漁かく量の約四分の三
(イ) 総漁かく量の約二分の一
(ウ) 総漁かく量の約三分の一



■問題9 工業生産額の多い都府県

日本の工業は、四大工業地帯を中心に発達してきましたが、その後新しい工業地域も開発され、いまや世界有数の工業国へと発展しています。

とくに、太平洋と瀬戸内海沿岸にかけて広がる工業地域は、太平洋ベルトとよばれ、工業の発達した地域です。

ではこのベルトの中で、工業生産額（出荷額）の多い都府県の順位は、どれが正しいでしょうか。

- ア（ ） ①愛知県、②神奈川県、③大阪府、④東京都
- イ（ ） ①東京都、②大阪府、③神奈川県、④愛知県
- ウ（ ） ①神奈川県、②東京都、③大阪府、④愛知県

（一九八〇年）



■問題10 日本最初の洋式溶鉱炉

日本の製鉄業は、第二次世界大戦の敗戦で大きな打撃を受けましたが、しだいに生産力を回復し、とくに昭和四十年代にはいつてから飛躍的な発展をなしました。

ところで、日本に最初の洋式溶鉱炉を取り入れ、せん鉄を生産することに成功したのは、大島高任という人でした。それは、一八五七年のことで、彼は日本の製鉄技術のうみの親とよばれています。

では、高任が溶鉱炉をつくったのは、次のどこだったでしょうか。

- ア（ ） 福岡県北九州市
- イ（ ） 神奈川県川崎市
- ウ（ ） 岩手県釜石市

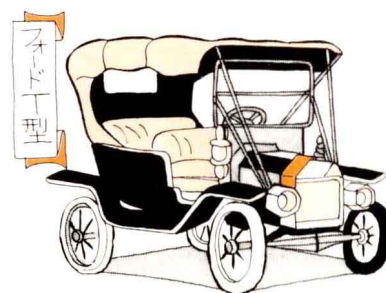


■問題11 高効率なフォードの分業

一九〇〇年ごろのアメリカでは、どの自動車会社でも、専門職の人が自動車を一台ずつつくっていました。そのため、一台の自動車ができてからまでに約三か月もかかり、価格もたいへんに高いものでした。

そこで、フォード自動車会社の社長フォードは、仕事をこまかくわけ、かんたんな仕事をおおぜいの工員で手分けしてつくる方法をとりました。エンジンをつくる仕事は、八四の工程にわけましたが、それまで八人で八四台のエンジンをつくっていた時間と同じ時間で、今度は何台のエンジンをつくることができましたでしょうか。

- ア（ ） 約二五〇台
- イ（ ） 約三〇〇台
- ウ（ ） 約三五〇台



■問題12 友禅ぞめの名まえの起り

友禅ぞめというのは、白い絹布地にもようを手がきした日本の代表的な絹織物です。この方法は、江戸時代の中ごろからはじめられ、自由なようにと多様な配色とで、その物を多様化しました。明治時代になって型紙を使う方法が取り入れられ、そして現在は機械によるその方も行われるようになり、大量生産ができるようになりました。

では、どうして友禅ぞめとよばれるようになったのでしょうか。

- ア（ ） 宮崎友禅齋がはじめたから
- イ（ ） 友禅という女性が着たから
- ウ（ ） 友禅という原料を使うから

